

# 日中科学技術

No. 181  
2022. 6. 30

発行所 特定非営利活動法人 日中科学技術交流協会

〒103-0003 東京都中央区日本橋横山町 3-1 横山町ダイカンプラザ 302 号

E-mail : [jcstea2019@gmail.com](mailto:jcstea2019@gmail.com) / [nagakiya@nifty.com](mailto:nagakiya@nifty.com) URL : <http://jcst.in.coocan.jp/>

電話 : 03 (6661) 7929 携帯 090-7629-6260

Fax : 03 (6661) 7929

## 海外人材に魅力的な中国の都市上海

協会会員 上海国際人材交流協会大阪事務所所長 欧陽 逸



中国は改革開放政策の進みにつれ海外留学生が大幅に増えましたが、帰国した留学生は1978年から2010年までに僅か3割

にとどまり、約7割の留学生が現地に残ったままということになりました。中国政府はこのような海外で知識や技術を習得した「ハイレベル人材」の「頭脳流出」に対し、国内に呼び戻すべく、海外留学生に対する優遇政策を1990年代中頃から始めました。

このような状況の下、上海市は、2000年代初頭に中国全土に先立って外国籍を取得した海外人材を対象に海外人材居住証制度の創設や起業家に対する資金支援目的の「浦江人材計画」等を打ち出しました。「留学人員創業園(留学生起業パーク)からは、住宅購入や家族の就職と子供の就学など経済面の優遇政策が提示されました。

上海市外国専門家局は主に外国籍や中国籍の海外留学生に対し、上海での就職斡旋や起業支援、上海で働く外国人の在留

管理や上海市と外国の民間団体等の交流促進を担っております。また上海国際人材交流協会は、外国専門家局の指示を受けた補完的な役割を果たしています。

上海国際人材交流協会は、2002年から順次、パリ、シリコンバレー、ロンドン、シドニー、ハノーバー、トロント、大阪、ワシントンに連絡事務所を開設し、現地の状況に詳しく、滞在歴の長い華僑、華人(外国籍取得者)を起用しており、小職は2005年にオープンした上海国際人材交流協会大阪事務所所長を拝命しました。

2003年に、上海市は「万名海外留学人才集聚工程」(3年間で1万名の海外留学生上海大集合プロジェクト)を発足し、僅か2年3か月で10230名の海外留学生を上海に呼び戻すことに成功し、目標を達成することができました。当時、海外連絡事務所、特に欧米諸国の事務所は大きな役割を果たしました。

2006年に、有山正孝団長、藤崎聡達副団長、山脇道夫副団長、永崎隆雄事務局長が日中科学技術交流協会NPO法人設立幹部訪中団を引率し、北京と上海を訪問されましたが、小職は皆さまの上海訪問に同行し、上海大学や上海市科学技術協会等に視察する際のアテンドを務めました。名高い学者の方々ですが、ユーモアのある愉快的な先生たちばかりなので、楽しい

時間を過ごすことができました。

上海は中国のなかでも最も豊かな地域であり、特にこの20年あまりの成長は目覚しく、多くの留学者や外国人材が上海の魅力に惹かれています。統計によると2021年8月までに上海で就職や起業した留学者は22万人強に上り、全国一に輝いています。

また、中国科学技術部（外專局）が実施した「2019年魅力ある中国-外国籍の人材に最も魅力的な中国の都市」という行事の結果が2020年11月に発表され、上海が8年連続1位を獲得しました。

森記念財団都市戦略研究所が2020年12月8日に発表した「2020世界都市総合力ランキング」によると、2019年30位だった上海はスコアを大きく伸ばし、シドニーを抜いて初のトップ10入りを果たしました（北京15位）。同研究所が昨年11月に公開した「2021世界都市総合力ランキング」では、上海が10位（北京17位）を維持しました。

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、上海市は2020年に「グローバル起業ビジネスプランコンテスト」を初めてオンライン形式で開催し、19カ国・地域の留学者や外国人から200件強の応募がありました。その内、17件のビジネスプランが選ばれ、賞金や資金投入を受けています。

2021年9月に上海市外国専門家局主催の「オンライン欧米名門大留学人材募集会」が上海とロンドンで行われ、約1500件の求人に対し、英国G5（大学）やコロンビア大学、シカゴ大学留学者や外国人卒業生1000名以上から応募がありました。

また、「中欧（ドイツ、スイス、オランダ）職業発展とイノベーション・スタートアップフォーラム」や「中澳（オーストラリア）職業発展とイノベーション・スタートアップフォーラム」等のイベントはオンラインスタイルで次々と開催されていました。

コロナ禍において日中両国の人々が支援物質を提供し支えあったことは記憶に新しいですが、最近の調査によると、中国に「良くない」印象を持つ日本人は90%弱に上り、日本への印象を「良くない」とした中国人も約66%になりました。

日中両国は経済的な相互依存度が高く、両国間の相互理解を深め、民間交流の重要性はますます高まってきていると痛感しています。

日中関係が、正しい方向に進み、両国は共に繁栄し、発展していくことを願ってやみません。

---

## 日中民間人会議の思い出

協会会員 筑波大学名誉教授 山田 圭一

---

私は1983年以来10回ほど中国を訪れていますが、そのうち9回はいずれも恩師の元東京大学総長向坊隆先生のお伴をしての旅でした。

向坊先生は南満州鉄道の重役だった方の御子息として、大連で生まれて、幼少の頃から周囲の方々から神童のように注目されていたようです。そして大連の中学から、旧制の第一高等学校に入学するために、東京に移られ、東京帝国大学工学部を卒業されてから、同大学の総長を務められるまで、大学教授としてだけでなく、とりわけ原子

力の平和利用のためなどにも、大きな功績を残していらっしゃいました。

そして、大連についても、その発展のために協力する「大連会」のメンバーの一人として毎年故郷へ帰るのを楽しみにしていらっしゃいました。

その他にも北京をはじめ中国の各地に足しげく通っていらっしゃいました。そのうち私がお伴をしたうちでも、とりわけ日中民間人会議のことが強く印象に残っています。

この会議の目的は以下の「日中民間人会議の開

催こあたって」という文書(資料1)に述べられています。

(資料1) 「日中民間人会議」開催こあたって

本年9月29日、わが国と中華人民共和国との国交正常化が実現して10年を迎えます。この間、両国の友好協力関係はたえず発展し、貿易額、人事往来はともに10倍ご増え、80年代の友好協力関係ご明るい展望がきりひらかれております。こうした日中新時代ごあって、未永い両国の健全な発展ごは、政府関係の緊密化ごとともに、広く国民各界の良識を結集したわが国民間人による、中国各界ごとの率直な意見の交換を深めていくごこともまた必要ごと考えます。

このたび関係者が相集い協議いたしました結果、両国が友好を増進し、協力関係を強化、発展させるごことは、アジアの安全ごと世界の平和ごに貢献するものごと確言し、両国の相互理解、協力を継続的に図っていく一環として「日中民間人会議」を開催することになりました。

1982年8月

日中民間人会議日本委員会

代表 伊藤 正義  
代表 岡田 春夫  
代表 向坊 隆

私も参加させていただいた北京での第2回会議の日本側のメンバー44名のリスト(資料2)を見ても、4つの分科会のいずれごにも、大臣の経験者ごやノーベル賞の受賞者ごなど

が参加していて、いかごもこの会議ごが重要視されてきたごことがわかっていただけるごことごと思います。

(資料2) 第2回日中民間人会議日本委員会主要委員(事務局案)

第一分科会 安全保障	第二分科会 経済協力	第三分科会 科学技術・エネルギー	第四分科会 教育・文化
伊東正義	大来佐武郎	向坊隆	永井道雄
岡田春夫	小川平四郎	江崎玲於奈	小川嘉子
坂本義和	岡崎嘉平太	岡本道雄	小口禎三
加藤紘一	宮崎勇	尾高邦雄	木田宏
関寛治	宮崎義一	久保亮五	田中武志
田英夫	山内一男	橋口隆吉	林大
野田毅	平岩外四*	福井謙一	源了園
林義郎	下河辺淳	山田圭一	吉田光邦

\*ペーパー参加

このようにして、1982年に東京で開催された第一回の会議ごから、1996年の北京での第6回会議ごまで、はじめは2年おきに両都市ごでということごになっていた筈ごのこの会議ごは、1990年の第5回ごから、いずれごも多数の参加者ごによる盛会ごが続いてきたごにも拘わらず、1996年の第6回ごまでに6年ごが経過してしまごった(資料3)。

その後のこの会議ごの経過ごについては、日中民間人会議日本委員会ごによって、39ページごに及ぶ詳細な記録ごがまとめられている。

そして、この記録ごの中で、日本委員会の代表の一人である伊東正義氏ごによる「日中民間人会議の政治的立場」という文章ごが載せられている(資料4)。

(資料3)

## 日中民間人会議の開催経緯

				参加委員数	
				日本側	中国側
第1回	1982年	10月7日～9日	於東京	83名	20名
第2回	1984年	6月26日～29日	於北京	48名	66名
科学技術分科会	1985年	6月27日～28日	於北京		
第3回	1986年	4月15日～18日	於東京	85名	25名
第4回	1988年	4月28日～30日	於北京	43名	52名
第5回	1990年	9月3日～6日	於東京	72名	19名
第6回	1995年	4月3日～5日	於北京	56名	50名

(資料4)

1996年4月

日中民間人会議の政治的立場  
第1回～第5回までの日本側 (伊東正義氏) の  
基調講演で明白にしたこと

日中共同声明・日中平和友好条約の基礎の上に、

1. 政府関係がぎくしゃくしても、民間同士の交流・対話により、相互信頼・友好が築かれれば、必ずや政府関係の健全な発展に寄与する (第1回)
2. 日本は、日米・日中友好関係を基軸としていく (第4回)

\*日中関係は、日米関係と並んでわが国の最も重要な二国間関係 (1992年4月7日、日中国交正常化20周年記念祝賀会での宮沢総理の挨拶)

3. 日中戦争の性格については、日本の侵略戦争であったという認識が立つ (第4回、第5回)
4. 台湾は中国の領土の一部 (第5回)、台湾との関係は民間交流 (第4回)
5. 日本は中国の近代化に、あらゆる面において、できる限りの協力を行う (第1回、第4回)
6. 相互信頼関係を基礎に、相互に耳の痛いことを率直に話し合える、真の友人関係を築き上げられたと思う (第1回)

今後は上記の1～6をふまえて、

- ① 共に豊かな国民生活、共に発展する日中関係
  - ② 世界の平和と繁栄に貢献する日中関係
- を築いていく。

この会合では、全体会議の他に幾つかの分科会で、いずれも活発な議論が行われたが、それぞれ民間の有識者がお互いに隔意のない意見を述べ合うことの大きな成果であったと思われます。

今になって振り返って見ると、当時の日本の様々な分野を代表するような人々が、40名も自発的に北京を訪れたその中には、多年中国の多くの人々に、言葉では言い尽くせない程の惨禍を

負わせたことへの贖罪と、またこのような行動に対して一切の賠償を放棄して日中の友好を求めたことへの感謝の意をこのような形で表したいという気持ちがあふれていた筈です。

そして、中国側でも、日本の出席者たちのそのような気持ちをよく察していたようで、会議の期間中毎晩のように盛大な招宴を用意して下さっただけにことどもらず次のリストに見られるように、最高級の指導者たちが、次々に会見してくだ

さいました (資料5)。

そして、鄧小平中央顧問委員会主任、胡耀邦中

央委員会総書記も日本側出席者の代表に一人一人握手をして下さいました (写真1)。

(資料5)

日中民間会議鼎滄寺に会見した中国の要人  
第2回 (1984. 6. 26~29 北京)

王 震・中国共産党中央委員会政治局委員

谷 牧・国務委員

彭 真・全国人民代表大会常務委員会委員長

鄧小平・中国共産党中央顧問委員会主任

馬 洪・中国社会科学院院長

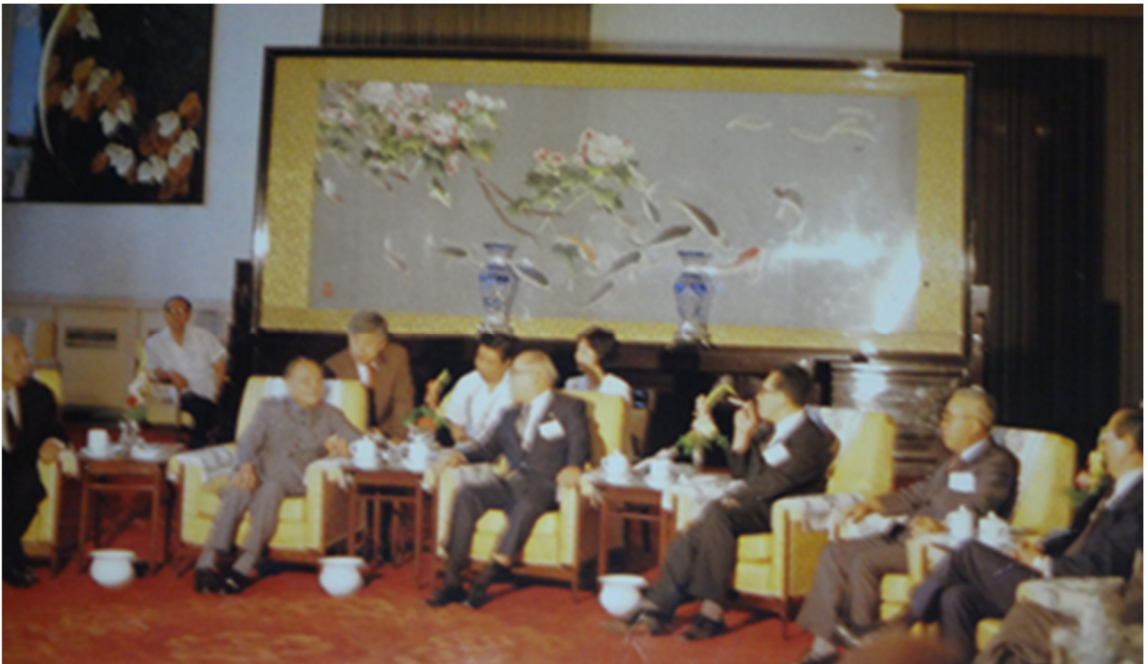
方 毅・国務委員

胡耀邦・中国共産党中央委員会総書記

趙紫陽・国務院総理

呉学謙・外交部長

盧嘉錫・中国科学院院長



(写真1)

中国首脳と会見する日本側の主要な参加者  
前列右から2人目が向坊代表、左から2人目が鄧小平顧問委主任 (当時)

私自身はこの会議の他にも、日中21世紀委員会の委員などを務めたこともありして江沢民総書記までの最高指導者のすべてにお会いしているが、中でも特に強い印象が残っているのは胡耀邦総書記である。ただ一度の出会いでも闊達な人柄がよくわかり、5代目の江戸っ子の私には、一番好感の持てる方でした (写真2)。

私は今でも、もし胡耀邦氏や趙紫陽氏のような優れた指導者がもっと長い間活躍して下さったならば、その後の中国はかなり違った国になっていたのではないかと想像することがあります。



(写真2) 胡耀邦総書記と筆者

さてもう一つのよい思い出は、会議の終了後に用意されていた地方視察のことです。

北京近郊の基地から、ホーカーシドレートライデントで出発した機は一路ウルムチに向かいました。私にとって憧れの地であったシルクロードを訪れ、天山山脈をすく間近に眺めることが出来るとは思っていませんでした。

そして、次に訪れた海南島では水泳場に導かれ、向坊先生も楽しそうに泳いでいらっしやいました。

香港経由で帰国するために、最後に回ったのは深圳でしたが、まだ建設が始まって間もないこの

街には、広い田園風景が残っていて、とてもここが巨大な工業地帯になるとは想像できませんでした。

2002年に向坊先生が亡くなられてからは、私が中国を訪れる機会がなくなりましたが、1983年以来の20年間に、中国は本当に目を見張るような躍進を続けてきました。それは、東京オリンピックより始まった日本の高度成長をずっと超えているような規模とスピードで進んで来ている。私もいつかもう一度現在のこの国の姿を目にしたいと望みながら、暮らし続けています。

---

## 協会の今後の運営の在り方 会員懇談会

### 2022年6月25日(土) Zoom 会議

---

第3回定時社員総会の終了の後、引き続きzoomによるオンライン方式で標記のテーマで会員懇談会を開催しました。

懇談会は山脇副会長の司会の下で最初に有山会長から問題提起・趣旨説明があり、その後、出席会員の間で活発な討議がなされ、以下のような意見が出されました。

#### 有山 正孝 会長

当協会は1977年12月に設立され、今年45年目を迎える。

設立初期、当協会は科学技術分野における日中間の数少ない確実な交流のチャネルとして、両国間の研究者の交流、訪中団の送り出し・訪日団の受け入れ、学術的会合の開催等を主催・支援して活発な活動を展開し、多くの成果を挙げた。1981年に発行された会員名簿によれば、その当時は正会員401名を擁し、賛助会員は146社にのぼる。

其の後、中国の改革開放政策によって交流は自由化し、研究者の往来が急速に活発となった。また中国政府派遣留学生の受け入れに始まって中国からの留学生受け入れ数は急増し、各年の在日中国人留学生数は数万人の規模に達し、全外国人留学生の半数以上を占めるに至った。多くの大学間で交流協定が締結

され、研究と高等教育の分野での交流は日常的なものとなった。当協会の初期の活動は中国における科学技術の現状を知りその基盤構築の支援を行う活動が多くを占めた。しかし其の後の中国の経済発展に伴い科学技術分野も急速に整備されて発展し、今日そのような必要は減少しているのみならず、分野によっては中国が我が国を凌駕するに至っている。

一方、国交回復直後は多くの日本企業が中国に進出を試み、その窓口として当協会が果たした役割も少なくなかったが、今は殆どその必要が無くなっている。現在は中国の経済発展・先進国化に伴い経済面においてはむしろ強力な競争相手となり、日本企業の中国進出のメリットは減少しているのみならず、逆に安価な中国製品の輸出によって打撃を蒙るに至っている。更に中国企業の日本進出さえ静かに進行している。

このような時代の大きな変化に対して、我々は十分に対応をしているとは言えない。

他方、設立45年を経て協会の内部にも変化を生じている。設立当初から長く会員として尽力されたベテランは年を経るごとに高齢化し去って行かれた。新規入会者は減少し退会者が増えて会員数は単調に減少し、現在は正会員48名、賛助会員1社が残るのみである。会員の減少と高齢化は、協会の運営・活動の硬直化・弱体化を招いている。

更に加えて此の2年余の間、COVID-19 パンデミックは人の移動を阻害し、交流活動は殆ど停止のやむなきに至った。この問題はパンデミックが終息すれば解消する。しかしそれよりも深刻な問題は、近年の中国の経済大国化・軍事大国化に起因する米中の対立・覇権争奪と日中間の国交関係の変化である。またこれに伴う国民感情の変化、特に嫌中感情の増大は日中交流にとって逆風となっており、中国との科学技術交流は国益を損ねるとする言説が公然と語られことすら常態と化しつつある。感情的言説、根拠なき言説は無視できるとしても、去る5月11日、国会において成立した経済安全保障推進法が施行されれば、その運用如何によっては日中間の科学技術交流は大きな制約を受けかねない。

また近年の中国の覇権主義的外交姿勢あるいは国内の人権問題に関して、厳しい意見をお持ちの会員も居られるであろう。

これ等の諸問題を考慮して当協会の今後の運営が如何にあるべきか、これまで理事会においても検討を重ねて来たところであるが、総会の機会に会員諸賢のご意見を伺い、参考とさせていただきます。

## 懇談会での御意見

### 鈴木 基之

私は一研究者として、中国の多くの研究者と1980年代中期から環境分野での交流を行ってきました。2000年ごろには循環型社会などへの遷移が関心事となっていたが、社会変革など、何かを起こすには中国の体制が適しているように思えた時期でもありました。

日中間で、個々の研究者のつながりの現状はどうでしょうか。そこで協会のような形のものかどのような役割を果たすことが出来るのでしょうか？

本協会は中国側の受け皿として科学院を想定しておられたように理解していますが、現在は科学院からの要望などはあるのでしょうか？一般的に、中国側としての組織的な交流に対する期待はあるのでしょうか？

### 有山 会長

第2次大戦後、日本と中国との間学術交流の再構築は日本学術会議と中国科学院との連携に始まったと言ってよいと思う。当時の学

術会議会員であった方々が設立された当協会を科学院は一定の敬意を以て遇し、以来、何かと協力していただいていた。しかし半世紀近くの間には状況は大きく変化している。国際的にみても中国にとって国際交流の相手は言うまでもなく日本に限られてはおらず、率直に言えばその中で日本の地位は低下していると見られる。一方、日本国内でも科学技術振興機構、学術振興会などの政府系の組織が日中交流に力を入れるようになり、民間の交流団体も多数設立されている。当協会は one of them に過ぎないが、「井戸を掘った人のことを忘れない」という訓えの通り、当協会に対しては特別に好意的に対応していただいていたように私は感じている。

しかし当協会において世代の交代が起こっているのと同じく、中国側でも科学院の院士の先生方、国際合作局の日本担当の皆さんの世代の交代が進み、特に窓口として密接な交流のあった邱華盛さんが定年退職された後、その後の世代の方々との交流は途絶えがちとなっている。当協会が学術交流に協力できる力は弱くなっており、その存続の必要乃至意義はないという考え方もあるが、最近の日中関係を見ると、研究者と研究者、人と人の繋がりは重要で、草の根の交流を断つ方向への寄与はしたくないと私は思っている。

### 欧陽 逸

日中関係は専門分野では粒子線治療技術交流などがオンライン会議で成功している。

### 余 東

数年前に中国科学院（国際部副部長）の邱さんの紹介で本協会に入会した。

この数年、コロナの影響もあり、協会の活動が少なくなっていることが気になっていた。先日有山会長から本協会の今後をどうするかと連絡があり、すぐに科学院の邱さん、陳海濤さん、中国科学技術大学の楊傑先生に相談した。邱さんと楊傑先生は、何とか本協会を存続してほしいとの強い思いがありました。同時に二人とも第一線から引退したこともあり、応援体制、予算面の協力は難しいとの話がありました。陳海濤さんからは、今後本協会が中国との交流、例えば訪中団、講演会などを行う場合は、上司と相談し、中国科学院として、資金面も含めて、応援したいと

約束してくれました。

私自身、中国科学技術大学在日 OB 会の会長も務めておりまして、これから後輩先輩にお願いして、本協会の会員募集活動を支援し、会員を増やし、セミナー&会合を重ね、日中の科学技術交流に貢献していきたい。

私は中国新疆で生まれ、日本に帰化した一世の日本人です。色んな活動を通して、子供たちの世代にも日中友好を繋いでいきたい。

### 鈴木 基之

今、日本滞在の中国人のネットワークは出来上がっているか？

### 余 東

たくさんできている。早稲田大学の中国人 OB 会も毎年やっている。サクラ計画で戻った人の連絡網もある。

### 鈴木 基之

そういうところと交流することはよいことだ。

### 司会 山脇 道夫

研究奨励賞の受賞者と指導教員に入会していただきたい。また、日本の大学に在籍中の中国人教員および中国の大学に在籍中の日本人教員などにも入会していただきたい。

### 西村 純

日中交流で共同研究や人材育成に力を削いだのはだいぶ前のことである。

時期的には文革の直後で、会長のお父上の有山先生にはご紹介をいただきいろいろお世話になった。

文革の直後で、中国側も科学院の研究所など再起のために気合が入っていて、人材育成や共同研究に大いに成果が上がった。

最近では、中国側も自立出来る力がついたこともあって、昔ほど熱心でなくなった印象を受けるが、お話を伺うと、科学院の他の分野では熱心に活動されているとのことで心強い限りである。

近隣の国との友好交流は本来あるべき姿であり、タイムスケールは100年から千年に及ぶものである。この長い期間の間あまり力がはいらない時期があるのもやむを得ないと思われるが、一方このような時

そ、草の根のつながりが絶えないよう先人の志を絶やさないような努力が必要であると感じている。

### 藤田 豊久

現在、欧米諸国および日本と中国の関係が微妙なときにこそ、日中の科学技術に関する友好のために、歴史ある日中科学技術交流協会として継続することが必要だと思います。ただ、交流協会の会員が50名以下であることおよび高齢化の観点から、継続には科学交流に興味がある会員を増やす必要があります。以下のように会員の皆様からの参加を呼びかける方法があるかもしれません。

- ・知り合いで、中国人学生が研究室にいる教員や研究者の方に参加をよびかける。

- ・本会で賞をもらった学生がいる先生に参加をよびかける。

- ・本会の賞をもらって日本に滞在している中国人のかたに参加をよびかける。

- ・日本の大学、研究所で教育、研究をしている中国人の教員に本会への参加をよびかける。

- ・中国で働いて、日本に戻って働いている企業の人および研究者に参加をよびかける。

- ・可能ならば政府機関関係の JST, NEDO, JETRO, JOGMEC の知り合いのかたに、私的な参加をよびかける。

- ・毎年6月頃に、JSPS は二国間交流事業 共同研究・セミナーの応募を開始しています。他にも、日中の科学技術交流関係の事業をご存知のかたがいましたら、お知らせしていただいで HP に載せる。

人生 100 年時代といわれる現在、会長および関係者の皆様は、ご健康であれば役員を継続していただければと思います。

また、長年事務局で担当されている永崎様にも感謝します。」

### 八木 晃一

米中での政治対立についていろいろマスコミ等で報道されていますが、中国に滞在して感じているのは、このような政治対立とは違って、学術、経済、文化、人材の行き来などで米中交流が非常に活発に行われているということです。地道な、そして一步一步積み上げる交流の努力がされていることを感じます。小生が北京に滞在するようになって14年



になりますが、初めのころと現在では、中国の技術分野、また社会生活は大きく変貌しています。これまでの、上から目線でなく、対等、またある分野では情報をもらうなどの気持ちの持ちようも必要と思います。

協会が学術分野の地道な交流の場となり、またそのような交流を通じて得られた情報を社会に伝える役割ができればよいと思います。このためには、当協会の活動について知っていただくことが重要です。ホームページはきちんと整備されていますが、より多くの方々に見てもらえる工夫が必要かもしれません。

当協会の関係した多くのベテランのシニアの方々の方が居られます。この方々の経験を活かし、中国の方や日本の方からの相談窓口的な役割もあるのではないかと思います。

当協会の活動は大きなものではありませんが、このような活動を積み重ねることによって多様で、底の深い交流ができるようになると思います。これから大変な苦労があると思いますが、活動が継続されるように協力させていただきたいと思っています。

### 岡田 雅年

昨今、当協会の日中研究交流活動が低下しつつあるが、会員の高齢化に起因するところが大きい。残念ながら我が身を顧みれば自明なことでもある。その結果、現状では協会収入は会員からの会費収入のみで、かつ会員全員からの納入を期待できない状況となってしまった。基本的な解決には、有山会長の対応策にある様に来年の総会で「執行部の若返り」を実行し、協会の再興を図ることに待つのみである。同様な悩みを抱えている学術系団体もあるが、執行部の若返りで新たな展開に成功している例も見られるので望みを託したい。

### 曾我 文宣

日中科学技術交流協会がいろいろな意味で岐路に立っている現状は、有山先生の認識、文章で非常によく尽くされていると思いました。私は政治における中国の人権問題は、紺

野さんの事実認識を聞いても非常に憂慮すべきとは思いますが、いずれ変化していく（今のウクライナ情勢を1年前に予見していた人は数少ない）と思っています。それに振り回されず、当協会はあくまでも、科学技術を通して、文化の国際交流に努めるべく、駅伝ランナーの如く世代間をつなぎ、粘り強く、組織を継続すべきだと思っています。

### 藤崎 博也

#### 1. 現在の形態の問題点(限界)

##### 1.1 成立時からの問題点

##### a. 交流の属人的性格

（分野限定-ad hoc。また当初は交流が活発でも、担当会員等の高齢化/死亡等による活動の維持・発展の困難さ）

##### b. 非対称性

（主として日本側からの善意の働きかけのみ。中国側には同様の発想も対応する組織もない。科学院は counterpart ではない）

##### c. 財政的基盤の脆弱さ

収入を主として個人会員の会費に依存するのは不十分。一方、寄付は収入源としては不安定。

##### 1.2 その後の変化とそれらへの対応の欠如

d 交流の「仲介者」に対する社会的ニーズの変化（低下）

##### 1.3 執行部（役員）の高齢化

-・若返りの必要性、任期制の導入。

#### 2. 今後の在り方

（改善、発展的改組など）について

年齢、健康状態の見地から適任な数名の会員から成る検討委員会を設け、現組織の改善案の作成を依頼し、それを全会員に提示して意見を求め、必要ならば修正の上、承認を求める。

### まとめ

本日はご出席の皆様から貴重なご意見を頂き、大変有益であった。これを参考として早急に具体的な方策を検討し実施して参りたい。

# 2022 年度 中国人留学生研究奨励賞 受賞候補者募集

本年度は、下記の要領により 2 件の中国人留学生研究奨励賞の受賞候補者を募集します。

推薦された候補者の中から、選考委員会が 2 名の受賞者を選出し、研究奨励賞を授与します。

記

## 1. 候補者の資格

日本の大学・研究所等の研究機関に在籍する中国人留学生で、大学院（修士、博士）課程またはそれと同等程度ないしそれ以上のレベルの研究を行っており、日本国内またはこくがいの学会で 2 回以上の口頭発表を行い、それらを 1 篇以上の論文として印刷公表（印刷中でもよい）している者（有給研究者は除くが、推薦受付締切り期日に博士号取得後 2 年以内の者はこの限りではない）。

## 2. 提出書類

以下の**原本 1 部とコピー 2 部**（計 3 部）を本会理事長宛（下記の住所）に郵送する。書類はすべて日本語で作成すること。

**(1) 推薦書（推薦者は本会会員\*であることが必要）**

**\*注 適切は推薦正会員がない場合は次ページの申込書で会員のお申込をお願いいたします。**

推薦者の氏名、所属、連絡先住所、電話、Fax、E-mail を明記。

## (2) 候補者の履歴書

氏名（漢字、フリガナ、および中国式ローマ字 pinyin で表記）、生年月日、出身地、所属機関（所在地、電話、Fax）、現住所、電話、E-mail、学歴、職歴（中国および日本において職歴があれ

ば明記）、旅券用と同じサイズの写真を貼付すること。

## (3) 候補者の日本留学中の業績

①和文で 20 字以内のタイトルを付け、その内容を 2000 字以内に要約したもの。

②誌上发表論文のコピー（または別刷。印刷中ならば原稿または校正刷）、および口頭発表論文（予稿・前刷等）のコピー、それらの一覧リスト。

## (4) 候補者の指導教員の氏名、職、所属（住所、電話、Fax、E-mail）

## 3. 推薦受付締切り期日：

**2022 年 9 月 30 日**（同日の郵便消印があれば有効）

## 4. 奨励賞の内容：

賞状および副賞 10 万円を、選出された各留学生に授与する。

## 5. 授与期日：

**2023 年 1 月**

上記 2 件の奨励賞は、会員有志からのご寄付を原資とするもので、研究分野は特定しておりません。

一般社団法人 日中科学技術交流協会  
会長 有山 正孝

〒103-0003 東京都中央区日本橋横山  
町 3-1 横山ダイカンプラザ 302 号室

E-mail : [jcstea2019@gmail.com](mailto:jcstea2019@gmail.com)  
([nagakiya@nifty.com](mailto:nagakiya@nifty.com))

一般社団法人日中科学技術交流協会 入会申込書 (個人用 法人用)

年 月 日

一般社団法人日中科学技術交流協会
会長 殿

私は、貴法人の目的に賛同し、

- 正会員 (個人); 総会や講演会への参加と総会での提案や議決ができます。
□賛助会員 (法人); 総会や講演会への参加ができ、協会活動を支援します。
□学生会員 (学生); 総会や講演会への参加や協会活動に参加できる。
□協力会員 (日本在住歴のある中国人); 同上
として入会を申し込みます。(何れかにチェックしてください)

(以下楷書でご記入ください。)

会社名 (所属会社機関・部署名・役職/大学・学部名・年次)

;

所在地: 〒

;

電話: ファックス: ;

会社の e-mail: 会社の HP URL: ;

法人の賛助会費申込み口数 : □ 1口年 10万円、1口以上 (年額): 万円

個人の正会員会費申込み口数: □ 1口年 1万円、1口以上 (年額): 万円

学生会員会費 ; 会費無料

協力会員会費 ; 会費無料

(ふりかな)

個人名/法人の担当者名 氏名 必須

自宅住所: 〒 必須

電話: ファックス: ;

個人 e-mail: 必須

(主に e-mail でご連絡ないし情報提供をいたします)

専門分野

推薦者正会員氏名: 必須

推薦を依頼できる正会員のお知り合いがない場合は事務局に e-mail でご相談ください。

\*\*\*\*\*

当法人は上記の情報をご本人のご承諾なしに公開することは致しません。

\*\*\*\*\*

送付先 : jcstea@gmail.com 又は nagakiya@nifty.com

\*\*\*\*\*

## 第12回理事会 3月25日

2022年度事業計画ならびに予算について審議し承認された。

## 第13回理事会 5月6日

### 1. 2022年度事業報告及び決算

4月22日監事監査で2021年度会計決算が承認され、本理事会で事業報告がなされ、決算が承認された。

### 2. 中国人留学生研究奨励賞にかかる規程等の制定

一般社団法人として改組した際に改めて規程を設けていないので、これを整備したく、提案した。継続審議とした。

### 3. 第3回（2022年度）定時社員総会の開催

以下の議題で6月25日開催する。

2021年度事業報告

2021年度決算の承認

## 第3回定時総会 6月25日

1. 2021年度事業報告がなされ、了承された。

2. 2021年度決算が承認された。

3. 2022年度事業計画及び予算が報告された。

## 会費納付のお願い

なお、2022年度会費につきましては下記口座へ納付をお願いいたします。

会費 年額1万円以上

振込先 日中科学技術交流協会

普通預金 みずほ銀行横山町支店

店番040口座番号3015881

## 目次

1. 海外人材に魅力的な中国の都市上海協会会員 上海国際人材交流協会大阪事務所 欧陽 逸	1
2. 日中民間人会議の思い出 協会会員 筑波大学名誉教授 山田 圭一	2
3. 協会の今後の運営の在り方 会員懇談会	6
4. 2022年度 中国人留学生研究奨励賞受賞候補者募集	10
5. 入会申込書	11
6. 第12回理事会	12
7. 第13回理事会	12
8. 第3回定時総会	12
9. 会費納入のお願い	12